

# Que Será, Será

VOL.10  
1997  
AUTUMN



廣江 武氏 撮影

## パニック障害と妊娠・出産

医療法人和楽会理事長 貝谷久宣



臨床医にとつてもっともうれしいことは、大変苦しみ悩んでいた患者さんが元気な姿になられるのを見ることです。先日Bさんが生後四〇日のかわいい赤ちゃんを連れて来院されました(守真)。Bさんは妊娠四ヶ月でパニック障害が再発し、なごやメンタルクリニックに受診しました。Bさんは妊娠を理由にとても薬をやめられるような状態ではなく、イミドールとクロナゼパムによる強力な薬物療法を続行しました。日に数回も激しいパニック発作に襲われていたのです。パニック発作の苦しみはかかった人にかわきりません。特に、精神的な苦しみ―不安とうつ―は体の病気のように目に見えるものではありませんから、周囲の人はなかなか理解してくれません。パニック障害という病気そのものによる不安・恐

怖もさることながら、彼女は未婚の母で、一人きりになる夜の不安は特別なものでした。毎夜襲ってくるパニック発作とともに孤独感と出産に対する恐れが重なり、その苦しみは筆舌に尽くせないものでした。ただひたすら新しい生命の誕生を願う彼女は耐え、闘病生活を続けたのです。そのBさんが自分にそっくりなかわいい赤ちゃんを連れて来院してくれたのです。私は五体満足で元気な女兒をみて胸をなで下ろしました。「愛らしい赤ちゃんの顔を見ているとパニック発作の恐怖は忘れてしまいます」とBさんは明るい表情で元気に話してくれました。Bさん以外に、なごやメンタルクリニックに来